

編集後記

新設多文化社会学部の紀要である『多文化社会研究』創刊号がようやく完成した。曲がりなりにも学部創設の初年度の内に紀要が発行されるというのは、それなりの「快挙」と言うべきではないかと、密かに自賛しているところである。これは本学部が教育は当然のこととして、研究にも力を入れていきたいという姿勢を如実に表すものであろう。内容も多文化社会学部の特徴を色濃く反映するものとなった。

特別にご寄稿いただいた学外の先生方は、いずれも本学部の創設に対し、直接、間接に様々なご協力、ご尽力をいただいた方々であり、玉稿を通して本学部に対する期待と叱咤激励をいただいたと思っている。今後、それにどのように応えていくか、大きな宿題を託された思いである。

また、本学部の教員の投稿も数は多くないが、多彩である。「多文化」を標榜するからには、テーマの多様性とアプローチの多様性は覚悟しなくてはならない。そして、いずれそこに単なる寄せ集めではない、多様な社会に対する真の意味で分野横断的な複眼的な視点が育って行かなくてはならない。この『多文化社会研究』は、その苗床の役割を果たすべく創刊されたと言っても良いであろう。しかし、現実には、今後ますます多様化するであろう投稿を、どのように編集し、査読してゆくのか、課題も山積している。

ともあれ、創刊号の刊行にこぎつけられたことは、うれしい限りである。この場を借りて、投稿いただいた先生方、快く査読をお引き受けくださった学内外の先生方、編集委員の方々、事務局の方々を含め、刊行にご協力いただいた方々に厚く御礼を申し上げたい。

『多文化社会研究』創刊号
編集委員長

広瀬 訓